

田尻だより

平成 21 年

8月号

Vol. 77

次の田尻便りは
9月1日発行です。



暦は八月ですが、田尻はまだ梅雨が明けません。例年より気温も日照も少なく、夜には霧も出ています。これから稲は穂孕み^{ほばら}期を迎えます。幼穂内^{ようすい}では減数分裂が行われ、この時期に低温に遭うと結実しなくなり^(不稔ふねん)ます。一日も早い天候の回復を、願ってやみません。

「支えあうということ」
このところ、よく思うのです。人は自分を「享受する側の人間」だと思いがちなあと。それをあらゆる場面で実感するのです。農家は補助金を貰^{もら}う側だと思っている。消費者は食料を作ってもらう側だと思っている。会社員は給料を貰う側だと思っていて、学生は何から何までやってもらって当たり前だと、疑問なく信じている。



大量生産の合理化社会の中で、人々の役割までシステム化され単純化してしまいました。全員が生み出^とす側でなく消費する側になつては、景気など回復するはずもありません。今必要なのは、与える↓貰うといった単純な関係ではなく、互いに与えあい、高めあつて発展する関係。有機農業の前に、有機的な人と人の結びつきが最重要だと思ふのです。

未 暦 ~こめごよみ~

7月2、4、5、7、11、12、16、18、20、25、26日 田んぼの生き物調査

7月21日 小牛田農林高校が視察学習にきました。

7月23日 韓国の大学生が農業体験にきました。

7月に稲が順調に生育し、茎の中では十分な数の幼穂ができています。それだけに、この時期の低温は本当に残念です。現在、深水管理で不稔防止に努めています。

嫁日記

いつもお米を食べてくれているお客様が田尻に遊びに来て下さいました。といっても彼女の来訪は2度目で子供達もなつきまくりで、お客様というよりもはや、完全にお友達です。

初対面からいきなり農業や食の安全や子育てや将来の

夢などを互いに語り合い、それはもう大盛り上がりで、初めて会った気がしないとはまさにこのこと。2度目の彼女の田尻来訪目的は、何と将来の移住先探し!

たかがお米されどお米。同じお米を食べ、田尻便りを通じて「知り合う」だけで、共通の基盤は確かにできるのだと強く実感しました。